



医師会との連携で、ガン予防教育を

質問 QUESTION

## ガン予防の普及啓発を図れ

回答 ANSWER

## 今後の方向性を検討します

〔民生部長〕

質問 日本人の死亡の第1位がガンであり、三人に一人がガンで死亡すると言われています。

11月28日にNHKスペシャルでガンは治るとして取り上げられ、今はガンワクチンで予防ならびに治療ができる段階まで来ていることが放映されました。

小中学校の子ども達にガン教育を恒常的に導入させてはと思います。ガンは早期発見、早期治療が大切であり、完治する確率も高くなると言われ

対するガン予防の普及啓発を図り、ガンに関する教育として年に3回ほど導入されてはと思います。

また、ガン対策推進本部や、同協議会などを設置し医師会とも連携を図り、健康教育の一環としてその仕組みを策定することを提案します。関係者のご所見をお尋ねします。

# 一般質問



山中 美恵子  
やまなか みえこ

ています。

以上のことを踏まえて、検診の受診率の向上、禁煙などガンにならない生活習慣の確立を進めていかなければなりません。

そこで、当町もガン対策推進条例を教育委員会と協働して児童・生徒および保護者に

回答

ガン検診で受診率が高くなるものでは、肺ガン検診の40%台がありますが、まだ、満足できる受診率ではありません。

平成23年から、子宮頸ガン予防ワクチン接種の助成制度が開始されました。中学1年から高校2年までの3回接種完了者は148人で、中学生

では接種率が低く最終年齢の高校2年生では、67・5%の完了率となっています。

これらの事業は、平成22年7月に制定された岐阜県ガン対策推進条例に沿って推進を図ってきました。ご提案の推進協議会などの設置については、医師会との連携が重要ですので、今後の方向性を見出したいと思います。

また、指導計画の中で、「個人の健康を守る社会の取り組み」 「免疫と予防接種」の学習とをつないで「ガン教育」を位置付けることは、ガン検診の受診率の向上や生活習慣の改善につながると考えます。一方で、同じように大切な

のは、家庭での健康意識の高揚に向けた取り組みです。入学説明会、就学時検診など節々をとらえた健康づくりや食育なども実施しています。ガン対策推進本部や協議会の設置、医師会と連携した事業の推進などは有効な一手だてたと考えます。